

2016 年度 システム理工学部

共通科目委員会 語学部会

# 自己点検・評価報告書

## 目次

1. 教員・教員組織
2. 教育内容・方法・成果
3. 学生の受入れ
4. 学生支援

### 1. 教員・教員組織

語学プログラムを担当する語学部会は英語担当の専任教員2名と特任教員1名および専門科目を担当する専任教員1名からなり、語学部会の運営を行っている。2015年度から始まる理工系に特化した語学プログラムの展開に伴い、専任教員1名の公募を行い、5月に着任した。

英語の授業は上記の専任教員にくわえて非常勤講師9名、特任講師2名、特任教員1名から行った。25名以下での授業が可能となるように2016年度に向けて英語非常勤講師の公募を行い、5名の採用を決定した。英語担当の非常勤講師に対して、新年度が始まる前の3月に説明会を行い、カリキュラムの説明、教科書の解説をし、意思疎通と理解の共有化を図った。

第二外国語担当非常勤講師は7名おり、教える言語のネイティブか、ネイティブに近い日本人講師を配し、学生にとって初めての言語を教えるのに適した経験豊かな講師陣となっている。

### 2. 教育内容・方法・成果

芝浦工業大学では、グローバル化した社会から学びグローバル化した社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下のように3つのポリシーを述べている（根拠資料：大学ホームページ）。すなわち、アドミッションポリシーでは、「我が国と世界の持続的発展に貢献」しようという意志をもち、「人類の進歩と地球安全の保全に尽くす」気概をもつ学生の入学を求めている。カリキュラムポリシーでは「世界と社会の中で自律的・主体的に活躍し、世界に貢献できる技術者を育て」ることを教育の目標とする技術者像としている。さらに、ディプロマポリシーでは「世界の諸問題を解決できる」能力を得たものに学位を授与するとしている。これらのポリシーにしたがって世界に貢献することができるためには、世界のさまざまな国の人々とコミュニケーションできる能力を備えていなくてはならない。システム理工学部語学部会では、世界の共通言語としての英語を中心として、英語圏以外の多様な国の人々とのコミュニケーションツールとしての第二外国語の教育を行っている。

近年、就職後や大学院進学後に役立つような英語力、本学部の場合は理工系人材育成として必要な英語力を育てるのに適した語学カリキュラムへの期待が強くなっている。さらに、就職活動時及び大学院進学時等に TOEIC スコアの提出を要求される場面が増えているため、実用的な英語能力を育むカリキュラムの必要性も学生から聞かれるようになってきている。

こうした背景から、2012年1月に学部長より語学カリキュラムの強化の要請が出され、「語学教育に関する将来像検討委員会」（以降、「検討委員会」と表記する）が語学部会教員を含む、本学部全学科から選ばれた5名の教員、計8名の構成により発足した。検討委員会の話し合いにおいては、例えば、学部生向け英語による理工系専門科目授業の展開、大学院進学予定の4年生への英語授業の提供、TOEIC テストの受験の制度化等を通じ、本学部学生の語学力が向上するよう、さらなる語学教育の強化・拡充することが検討された。最終的には、2015年度からの英語のカリキュラムの実施に関して、「国際感覚を持ったエンジニアに相応しい実践的な英語の4技能（読む、聴く、話す、書く）向上」を方針とする新カリキュラムを2014年4月に答申し（根拠資料：PDF ファイル）、4月のシステム理工学部教授会に報告された。

検討委員会からの答申を受け、その方針を具体化する作業を学部長、語学部会委員を含む教員、職員からなる英語カリキュラム改革全体会議にて行った。2015年度からの新カリキュラムの特徴は以下の通りすることを決定した。

- 1) 基礎的な一般英語の学習から始まり、理工系の実践的な英語に進む道筋を明確にする。  
そのために、1年次と2年次の英語の授業を一新する。
- 2) レメディアルクラスを新設し、英語の基礎力が不足している学生の英語力の底上げを計る。
- 3) 3年次には理工系のプレゼンテーションや、語学検定への対策授業を新設し、卒業後に必要とされるスキルや資格を獲得できるようにする。
- 4) レベル別クラス編成とし、学生の英語レベルにあった学習ができるようにする。
- 5) e-learning を1, 2年次の授業で全面的に取り入れ、自宅学習時間を確保する。
- 6) 海外語学研修に参加することにより単位が取得できるような授業を新設し、海外英語研修への参加を促す。
- 7) 4年次に進級時の目標とする TOEIC スコアを設定し、学習目標を具体化させる。
- 8) 英語学習サポート室を新設し、英語の疑問や悩みを相談できるようにする。

（根拠資料：PDF ファイル）

2015年度は、上記特徴を具体化するために、以下の英語カリキュラムをスタートさせた。学外英語検定以外はすべて新設科目である。

#### ●英語カリキュラム

- ・1年次            English Basic Skills I（前期2単位）

- English Basic Skills II (後期 2 単位)
- English Advanced Skills I (前期 2 単位)
- English Advanced Skills II (後期 2 単位)
- English Remedial Course I (前期 2 単位)
- English Remedial Course II (後期 2 単位)
- ・ 2 年次 English for Science and Technology I (前期 2 単位)
- English for Science and Technology II (後期 2 単位)
- ・ 3 年次 理工系英語プレゼンテーション I (前期、後期・2 単位)
- 語学検定対策講座 (前期、後期 2 単位)
- ・ 学外英語検定 I・II (前期、後期・各 2 単位)
- ・ 海外英語研修 I・II (前期、後期・各 2 単位)
- \* 学生は卒業までに英語科目を 8 単位 (選択) を取得することが卒業要件である。

1 年次の English Basic Skills および English Advanced Skills はアカデミックな表現を可能にする教材を用い、2 年次の English for Science and Technology は理工系の場面での表現方法を磨く教材を用いた。

TOEIC の基準点に達していない学生は、English Basic Skills の単位を取得に際して English Remedial Course の単位の取得を条件とした。また、TOEIC の高い基準点を超している学生に関しては、レベルが高いクラスである English Advanced Skills を履修するようにした。English Advanced Skills の履修者は、成績においてはレベルが高いことを考慮し、成績が低くならないようにした。English for Science and Technology においても、レベル別クラス編成にした。

このようにクラス別編成に TOEIC のスコアを活用しているが、入学時に全員が受ける TOEIC-IP 試験以降の任意受験の学内 TOEIC-IP の受験率は低い。この点を改善するために、2016 年度からは、1, 2 年次科目の成績に期末試験時に行われる学内 TOEIC-IP のスコアを組み込むことにし、各学期での受験を必須とする予定である。

1,2 年次のカリキュラムは充実して新カリキュラムはスタートしたが、3,4 年次の英語学習が確保されていない。この点について議論するために、2016 年度からは語学部会の中に語学ワーキンググループを設置し、各学科からの教員 1 名に参加してもらい、専門科目の教育と連携して英語学習を進める方策を検討することにした。

第二外国語・コースは、1 年次では語学の基礎を学び、2 年次では 1 年次で学んだ語学のさらなる発展ならびに、各言語の文化背景を学ぶ内容となっている。かねてから学生より要望のあったスペイン語、フランス語を 2008 年に新設し、受講者の多い中国語の授業数を増

やした。大学のグローバル人材育成プログラムの展開により留学生数が多くなり、大学の要請を受けて始めた日本語の授業は、今年度にはさらに増設した。第二外国語のクラスに関しては、授業内容が、コミュニケーションというよりも、文法学習が中心なので、1クラス30人以下で学生の受け入れを実施している。

具体的なカリキュラムは以下の通りである。（根拠資料：「学修の手引」、大学ホームページのシラバス）

#### ●第二外国語カリキュラム

- ・1年次 中国語 I・II、韓国（朝鮮）語 I・II、スペイン語 I・II、  
ドイツ語 I・II、フランス語 I・II、日本語 I・II・III

\*学生は卒業までに第二外国語科目を2単位（選択）を取得することが、卒業要件である。

システム理工学部の卒業要件を満たすには、学生は英語単位を少なくとも8単位取得する必要がある。英語科目は、科目は選択できるが教員は選択できない。履修クラスはWebシステム「S\*gsot」で通知される。こうした手順に関しては、入学時のガイダンス等において学生に周知しているが、受けるべきクラスでないクラスに出席する学生が散見され、さらに対策が必要である。

### 3. 学生の受入れ

語学部会では、部会の理念・教育目標を実現するために、学生の受け入れに関して、以下の制度を整備している：

- ・英語のクラスに関しては、効果的に英語能力を向上し、コンテンツ・ベースド授業を展開するために、25人以下のクラス編成の実施を目標としている。1クラスにおける人数を25人以下に制限するのは、授業をディスカッションを中心とし、学生と教員、並びに学生間のコミュニケーションを円滑に図るためである。2015年度は非常勤講師の不足により30名以下としたが、非常勤講師の新規採用により2016年度は25名以下のクラスになる予定である。
- ・第二外国語のクラスに関しては、授業内容が、コミュニケーションというよりも、文法学習が中心なので、1クラス30人以下で学生の受け入れを実施している。

大学のグローバル人材育成プログラムの展開により、留学生数が多くなり、大学の要請を受けて、日本語の授業を増設した。

### 4. 学生の支援

2015年度より大学会館に英語学習サポート室を新設し、英語学習の相談に行くことができるようにした。火曜日から金曜日の昼休みから3時間ほど開室し、教育イノベーションセンターの特任教員を2名の内1名が曜日ごとに常駐した。担当特任教員は **English Remedial Course** の授業も受け持っており、受講学生のレポートの指導などに活用している。また、PCを設置し、**e-learning** ができるようにした。特に利用方法の分からない1年生の来室が前期は多かった。

語学プログラムの教員はみな、オフィスアワーを設け、学生の授業時間外での質問や相談を受け、学生の語学学習支援を行っている。